

## 1 自己評価

### I 評価結果 (別紙参照)

### II 分析・改善方策

学校経営目標に基づいた目標管理が具体的に行えるよう、全ての部署が校長の定めた本年度の学校経営目標「『至誠剛健』夢を育む倉商 社会とつながり地域の未来を創造する学校」の達成に向け、事前に「数字で見る倉商」と名付けた校内の様々な数値データをまとめた資料および学校評価アンケートの結果をもとに現状分析を行い、問題点や改善点を明示した。その分析を踏まえ、学校経営目標に基づいて各部、室、学年、商業科他の目標やその達成基準、具体的取組を可視化するとともに、共通理解を図った。それらを踏まえ、直面する課題解決のために各部署が協力して教育活動に取り組んだ。

「最終達成状況と評価」においては、評価の根拠を可能な限り数値化して経年比較を行うと共に、校内企画委員会、職員会議において年間総括を行い、1年間の取組の成果と課題を全教職員で共有した。アフターコロナにおける学校運営において、生徒・保護者が安心でき、教職員が生き生きと働くことができる学校づくりを目指し、「今後の課題」として新たな取組や改善すべき点を明確にし、次年度に向けての円滑な目標設定とその実施、改善が担当部署ごとにできるように配慮した。

## 2 学校関係者評価委員名

中田 由美 (本校PTA会長)

前岡 修允 (倉敷観光コンベンションビューロー課長)

中山 芳一 (岡山大学 准教授)

内田 太 (岡山商科大学 講師、本校元校長)

## 3 学校関係者評価

計3回学校評議員会及び学校関係者評価委員会を実施し、各委員から標記学校経営目標の取組に対して最終的な評価と活発な意見や改善案をいただいた。以下にその内容を示す。

学習指導については、家庭学習に関する課題もあるが、より主体的に学習に向かう態度を育成するための方法として、「十分されていると思うが、ディベート等への取組により、社会に順応できるよう、多様な意見を受け入れ、対話し、考える力を身につける時間を確保してほしい。」とのご意見をいただいた。

生徒指導については、「これから校則の見直しもあるが、社会人として通用するよう指導する視点を持ち、生徒には自分で考えて行動する習慣を身につけさせるべきだ。」「学校行事が通常に戻って行けば、コロナ禍の影響で人間関係に悩んでいた生徒も取組の中で議論したり協力しあったりというところでどんどん成長していけると思う。」とのご意見をいただいた。また、進路指導については、「素晴らしい成果が見られている。事務職をはじめとした求人維持し、また進学させ、生徒を育てて地域にお返しするのが大前提であるので、頑張してほしい。」と高く評価をいただいた。

教職員の働き方については、「負担を減らすには一人で仕事を抱えることがないよう上手に分配できる体制づくりをすること、やるべきことを整理することが大切である。」「勤務時間外の電話対応について保護者に周知しているか。勤務時間を減らそうとしているのに、先生方が帰れない状況を作っていないか。」などのご指摘をいただいた。

いずれも本校が課題とすべき点への有用なご指摘、ご助言をいただき、学校経営改善に参考にすべき点が多々あった。また、スクール・ポリシーについてもご検討、ご助言をいただいた。

## 4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ・本年度の学校経営目標に基づいた取組の成果と課題を職員に周知し、さらなる改善を目指して設定された目標の意義や目的を職員間で共有する。また、生徒の成長と教職員の働きやすさを両立させる学校経営改善の方針を進めていく。

- ・地域社会へ貢献できる人材の育成を目指すとともに、社会に出ても通用するよう、自律的に考えて行動し、多様な意見を受け入れられる力、自ら考えながら対話できる力を身につけさせる。

- ・教職員の働き方に関しては、仕事量の適正化と労働環境の改善を図りつつ、勤務時間外の業務に関するルールの明確化や教職員の負担軽減に努める。これにより、教職員がより効果的に業務を遂行し、生徒の支援に集中できるような働きやすい環境を整備する。